



『中野武蔵野ホールの記憶を若い世代にも語り継ぐ』と
 勝手な使命感に燃えて始まったこの企画。
 状況が呑み込めない若手実行委員を引き連れて、都内某所で
 生き証人細谷氏へのインタビューを敢行！（黒川由美子）

特別インタビュー



中野武蔵野ホールが今のような形になったのは86年ごろのこと。『ピリィ★ザ★キッドの新しい夜明け』（'86 監督：山川直人）のアンコールロードショーで幕を明けた……。

「その前は大井武蔵野館で支配人をやってたんだけど、中野に劇場ができるので呼ばれることになった。最初の頃はヒットに恵まれず作品の傾向も様々。つまらない作品も多かったなあ」

しかし、『追悼のざわめき』（'88 監督：松井良彦）が流れを変えることとなる。この映画の内容は多くのタブーを含んでいるため、どこの劇場でも上映を断わられていたが細谷さんは**リスクをかえりみず**引き受けた。ふたを開けてみたら熱狂的な支持を得て**大ヒット**。その後の中野の路線を決定付ける一本となる。それからは、上映館を探している**インディーズ映画の持ち込み**が後を絶たなくなる。折りしも日本の自主映画界は活気を帯びてきた頃。多くの才能が中野をきっかけに巣立って行った。『鉄男』（'89 監督：塚本晋也）『バナナショート裁判』（'89 監督：佐藤闘介）など海外で注目された作品も数多く公開。中野は**なんか面白いことやってるな**という雰囲気がみなぎっていた。

「監督と劇場が一緒になって宣伝をしていた。配給・宣伝会社が少ない（大手しかない）時代なので、インディーズ映画は自分たちで広めていくしかなかった。」

日本映画以外では『死霊の盆踊り』（裸の霊が延々踊り続ける映画）などおバカなカルト系映画もたくさん公開。こういった映画は一風変わった宣伝やイベントに力を入れた。

「『死霊』の時、魚屋から盗んだ発砲スチロールでお墓を作って飾ってたら、お客よりネコの方がいっぱい来ちゃって。あれは参ったね。」

（ちなみに「死霊」配給は今やすっかり大手配給会社に成長したギャガ。しかも記念すべき第一回配給作品らしい！時の流れを感じる。）

このように細谷さんは次々とアイデアを実行に移していった。映画となんかの関係があるんだか「**超放禁**（放送禁止）」**落語会**なるものやっていた時期も。タイトルそのままの内容で、容易に想像できることだが**途中で打ち切り**となったそうだ。

そして（たぶん）'92年ごろ、伝説？の**レイトレイトショー**が始まる。
 「毎月第三土曜の夜、無審査で持ち込み自主映画をかける無法地帯。上映終了後は

電車も無くなるので、近くの「俺んち」（細谷さん宅でなく、中野の居酒屋）で朝まで飲むのがパターンだった。皆映画より飲み会を楽しみに来てたよ。」

劇場を開放して（入場料もタダ！）のオールナイト上映に自主映画作家たちは喜んで中野に集った。**劇場公開のハードル**が減茶苦茶低くなったこの機会を逃す手はないということで！（たとえ観客が皆寝てたとしても）しかし、そんな自由な広場も長く続けているうちに段々と様変わりしてしまったそう。

「派閥が出来たりして面白くなくなったから、引いちゃったんだよね。」

その頃、実は細谷さんはもう中野の支配人どころか武蔵野興業社員でもなくなっていた。日本映画界に新風を巻き起こしていた配給・製作会社**アルゴプロジェクト**（現アルゴピクチャーズ）に引き抜かれていたのだ。それでも、しばらくは中野のプログラムに関わっていた。アルゴの劇場シネマアルゴ新宿（現在は閉館）で『二十歳の微熱』（'93監督：橋口亮輔）が大ヒットした年、中野で『裸足のピクニック』（'93 監督：矢口史靖）もヒットするなんてPFF黄金時代も。配給会社アルゴとしても中野武蔵野ホールとの付き合いは続いた。『誰も知らない夏の空』（'00 監督：中 治人 誰も知らない映画ですよね…）、『ペイン』（'01 監督：石岡正人 日本映画監督協会新人賞受賞）などなど。

しかし、**インディーズの砦**としての中野武蔵野ホールの役割はだんだんに終わりを迎えようとしていた。細谷さんの手を離れたからか？他にもインディーズ映画をかける劇場が増えたからか？

「かんげーねーよ！」

インディーズとプロの映画の境界線が曖昧になり、かつての中野でかかっていたような気骨ある自主制作映画が少なくなってきたことも一因かもしれない。2002年より閉館した新宿昭和館の跡目を継いで任侠映画館に方針替えし、現在に至る。

ふりかえって言えること。

「映画はイベントだ！」

ありがとうございます。TCFとしても参考にしたいものです。

中野のスピリットは巣立った人たちの中に生き続けることでしょう！（たぶん）
 （取材日：2004年4月28日）



細谷 隆広(ほそや たかひろ)氏
 中野武蔵野ホール初代支配人。現アルゴピクチャーズ(本人いわく肩書きナシ)。映画業界では知らない人はいない有名人。ゲタにアロハシャツが平服。

インタビューに同行して…

世代が違うせいでわからない話だらけだったのにもかかわらず、ゼロから作り出す事の意味や、その時の熱気が伝わってくるようでした。個人的に大好きな作品である、塚本晋也監督の「鉄男」が、中野武蔵野ホールにおいて初めて上映されたのだという話には、感激しました。(本)